認知症介護マーク関連記事

平成２３年１月２８日（金）　シルバー新報

静岡県「認知症介護中」マークを作成
全国初、デザインを選定中

静岡県は全国で初めて、認知症の家族などを介護中であることを知らせる「介護中マーク」を作成する。認知症の妻を連れて夫が女子トイレに入ったり、下着売り場に付き添ったりする場合に周囲に驚かれることがあるため、介護中であることを周囲に理解してもらうためという。

県長寿政策局によると、マークは、認知症患者を支援する家族会からの要望を受けて作成する。昨年7月の県と家族会との意見交換会で、マーク作成の要望が出た。

男性が妻や家族などの女性を介護して女子トイレに連れて行ったり、女性の下着を買ったりする時に、「周囲の人から白い目で見られて辛い」との声が多かった。女性同士でも、認知症の症状で大声を出したり、騒いだりしているのをいじめていると誤解されるケースも多いという。

静岡県は、10年度にマークの作成に300万円を予算化。現在はマークのデザインを3種類の中から選定中（写真）で、今月中にも決定する。介護マークを1万枚、ポスターを3千枚作成して、4月以降、自治体や地域包括支援センターを通して配って普及させたいとしている。

静岡県長寿政策局の宮城島好史局長は「認知症の人の場合、ぱっと見ただけでは症状が分からず、介護中かどうか分かりにくいことがある。マークを通じて認知症に対する社会の理解を深めていきたい」と話している。